



芦屋ユネスコ協会

AU 通信

「戦争は心の中で生まれるものだから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」

8月15日「平和の鐘を鳴らそう」行事实施

64回目の終戦記念日となる8月15日、芦屋市民センター正面玄関横の「優愛の鐘」広場に山中市長を始め、会員及びその家族を中心に市民約100名（内児童、生徒、学生15名）が集い、～平和の祈りと願い～を込めた行事を実施しました。広瀬会長、山中市長の挨拶のあと、ユネスコの平和宣言を一同声高らかに唱和し、正午のサイレンとともに黙祷のあと、一人ずつそれぞれの思いを込めて「優愛の鐘」を高らかに打ち鳴らし平和の誓いを新たにしました。

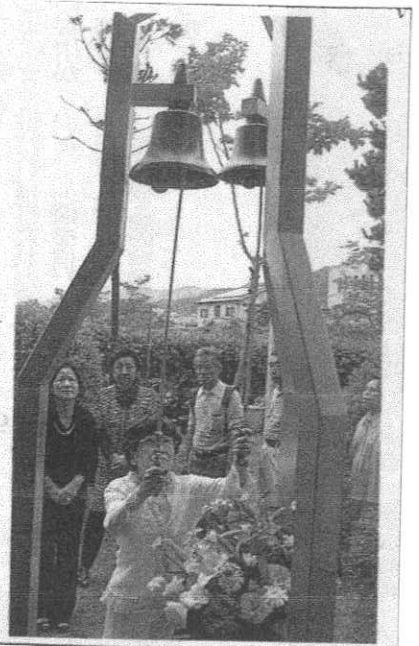
この後、市民センター203室へ会場を移し、広瀬会長から冒頭で学徒動員や大阪大空襲の時の体験談などが語られ、会員に用意して貰った戦時食の「ふかし芋とおにぎり」を食しながら、参加者から次々と戦中、戦後の回顧談や今、思うことなどが語られ、悲惨な戦争を決して忘れずその当時の教訓を生かして平和を築いていくことの大切さをお互いに確認し合いました。戦争を全く知らない若い学生からは、戦争の悲惨さをしっかりと受け止めこれを語り継いで、戦争を絶対に起こさない平和な世界を構築する役目をしっかりと果たして行きたいと所信を力強く語ってくれました。

ユネスコは「平和の志」を掲げ、二度と戦争を起こしてはならない！世界の平和と人類の福祉に貢献することが活動の原点です。この心をつなげてゆくためにも、芦屋ユネスコ協会の「平和の鐘を鳴らそう」行事は、毎年継続して実施されており市民のみなさんの理解と協力を得て定着して参りましたことは嬉しい限りです。今年もこの～平和の祈りと願い～を込めた行事が多彩な内容で有意義に実施できましたことをご報告申し上げるとともに、参加のみなさんと、お手伝いに汗を流して頂いた会員の皆さんに厚くお礼を申し上げます。



芦屋ユネスコ協会で毎年実施されている「平和の鐘を鳴らそう」行事は、各報道機関も関心を示しこれを取り上げてくれており、今年もその記事が各紙に掲載されましたので参考までに添付させて貰います。

「優愛の鐘」に
戦時をしのぶ
芦屋、100人黙禱
64回目の終戦記念日を迎えた15日、芦屋市業平町の芦屋市民センターで、「優愛の鐘」を鳴らす恒例行事があった。芦屋ユネスコ協会の主催。約100人が参加、正午の合図で黙禱したあと、「優し愛」などの意味が込められ



たオランダ製の鐘を一人ずつ鳴らした。写真。その後、センター内でふかし芋やおにぎりを食べながら、食糧難に苦しんだ戦時中に思いをはせた。終戦の年に女学校を卒業したという同協会の広瀬忠子会長(82)は「玉音放送は何を言っているのかよくわからなかった。灯火管制がなくなってきた。明るい部屋で暮らせるようになって終戦を実感した。若い人たちには想像もできない時代が64年前にあったこと、戦争のむごさやおろかさを次の世代へ伝えていきたい」と話した。

平和祈る鐘響く

終戦記念日 市民ら戦争体験に涙
芦屋



平和を祈って鐘を鳴らす参加者
—芦屋市業平町で

終戦記念日の15日、芦屋市民センターで、平和を祈って戦争体験を語る催しがあった。奉仕団体「芦屋ユネスコ協会」の主催。参加した約100人の市民は、正午に合わせて前庭で黙とうし、鐘を鳴らした後、学徒動員や空襲の体験を語り合った。同協会の広瀬忠子会長(82)は終戦前日の14日に大阪市で大空襲にあい、「次の爆弾で死んでしまうかも」と震えていた体験を述べた。「嫌なことは忘れないが、あの残酷な戦争を繰り返さないため

に伝えていかなければいけない」と話した。「何十回も兵士の出征を見送った」という女性、一人の親になって初めて、戦地に散りて行く息子を見送った。

【山田奈緒】

毎日新聞

2009年(平成21年)8月16日(日)

太平洋戦争終結から丸64年。阪神地域でも15日、平和を願う行事が各地で開かれた。参加者は当時の記憶を振り返り、戦争の恐ろしさ、平和の尊さをあらためてかみしめた。

終戦記念日

和子さん(72)は、戦死した兄のことを話した。当時、わたしは国民学校の2年生。幼くてよく分かっていなかったけれど、今、父母の気持ちを考えると涙が出る。戦死の知らせが来たとき父は庭に飛び出して「万歳!」と叫んだが、本当はどんなに悲しかったか…。参加者は静かに聞き入った。

芦屋戦争体験聞く会

神戸新聞

2009年(平成21年)8月16日 日曜日

芦屋市業平町の市民センターでは、芦屋ユネスコ協会が戦争体験を聞く会を開いた。子どもから戦争体験者まで、約50人が参加した。

同市大原町の主婦、原野

未来遺産運動（地域遺産運動）

（社）日本ユネスコ協会連盟

日本ユネスコ協会連盟は100年後の子どもたちへ、長い歴史と伝統のもとで豊かに培われてきた地域の文化・自然遺産を伝える運動を展開しています。

地域の文化・自然遺産を未来に伝える市民団体の活動を支援する「プロジェクト未来遺産」、

子どもたちがふるさとの伝統と文化の素晴らしさを学び、誇りと愛着をもってふるさとを紹介する「私のまちのたからものコンテスト」などの活動を軸に他団体や行政機関とも積極的に連携し、国民的な運動として盛り上げをはかることにしています。

‘09近畿ブロック・ユネスコ研究会 in 京都

（8月22日（土）～8月23日（日））

大会テーマを「世界遺産から地域遺産についてもう一度、振り返ってみよう」とし、未来遺産（地域遺産）についての研究会がもたれました。近畿地方はユネスコの世界遺産の数々を有しているが、その他にも世界遺産に認定されていない本来の日本の有形、無形文化遺産の宝庫でもあります。

いま日本人がともすれば忘れがちな「振り返ること」をもう一度思い起こし、自分の住む「わたしたちのまちの文化」をしっかりと知り理解してそれを守り、次の時代に確実に伝えて行く運動を日本ユネスコ協会連盟の未来遺産運動（地域遺産運動）に呼応して各ユネスコ協会がこの運動を展開し促進してゆくことがテーマのひとつになりました。

芦屋ユネスコ協会

芦屋ユネスコ協会も——芦屋文化の百年リレー——をスローガンに芦屋の長い歴史と伝統のもとで豊かに培われてきた文化・自然遺産を顕彰し伝承していく運動を企画しています。

芦屋市内の◎指定文化財（・国指定文化財・国登録有形文化財・県指定文化財・市指定文化財）をはじめ◎芦屋の自然◎芦屋の歴史と古典文学◎芦屋の史跡と埋蔵文化財◎芦屋の近、現代文学◎芦屋のモダニズム文化 等々の中からできるだけ幅広くリストアップして、その中から芦屋ユネスコ協会として取り組みたい芦屋の未来遺産を選定していきたいと思っています。

芦屋ユネスコ協会として、市民のユネスコへの理解と協力を得るためにも「未来遺産運動」（地域遺産運動）の顕彰と伝承運動を現在の運動に付加してその盛り上げをはかってゆきたいと願い企画を始めています。今後、会員の皆様のご支援ご協力をお願い致します。

芦屋ユネスコ協会

年末講演会&親睦会のご案内

早いもので今年もいよいよ年末が近づいて参りました。皆様には如何がお過ごしでしょうか。

今年度も恒例の芦屋ユネスコ協会の「年末講演会&親睦会」を下記要領にて開催いたします。どうぞ奮ってご参加下さいますよう ご案内申し上げます。

記

日 時 : **2009年12月15日(火) 18:00~20:30(受付:17:30~)**

◎今からご予約をお願いします。

場 所 : **ホテル竹園 3階**

内 容 : 講演会・・・外務省関西担当特命全権大使

食事会・・・フリースタイル

ビンゴ・・・景品多数

エンターテインメント・・・ヘルマンハーブ演奏(梶原千里 会員)

会 費 : 6,000円(学生3,000円)ービンゴ券1枚付 : 当日受付にて

会員はもとより非会員のご家族やご親戚、ご友人、お知り合いの方など多数お誘い合わせの上 お申込み下さい。

出欠届 : 往復ハガキをお出ししますので出席・欠席にかかわらず必ず返信して下さい。お問い合わせ等は下記までお願いします。

事務局 本庄 恵美 電話・FAX (0797) 32-7910

締切日 : 2009年11月23日(月) ※締切日厳守下さい。

(早めに返事をして頂きますようお願い致します。)

お願い①**ビンゴの景品提供**にご協力をお願い致します。家に眠っているもの(新しいもの)をお持ち下さい。当日受付にてお手渡しくだされば助かります。よろしく。

②**書き損じハガキ**がありましたらご持参下さい。

編集後記

やっと涼しくなってきたらもう年末のお知らせです。今年も色々ありましたが来年もいい年でありますように皆様で年末の講演会及び親睦会を過ごしたいと思います。多数の方のご参加をお待ちしております。 本庄 美恵